

## 佐久島産サツマイモの芋焼酎「sakushima 咲島」 完成・発売記念の披露会開催 6月発売予定

耕作放棄地拓いた畑からサツマイモ1.2ト収穫、限定約1,300本製造  
JA・市・島民団体・愛知淑徳大・NPO法人連携、佐久島の「新・名産品」



JA西三河は4月中旬、佐久島産サツマイモの芋焼酎「sakushima 咲島」を、6月（予定）に発売します。「sakushima 咲島」は、佐久島の新・名産品として、JAと西尾市、島民団体「島を美しくつくる会」が協力して栽培を開始したサツマイモを使用。西尾市で酒類・みりん等の製造を行う相生ユニビオ㈱の加工により、このほど完成しました。

佐久島の新・名産品としてサツマイモを栽培する「サクのいもプロジェクト」の一環。島内で増加していた耕作放棄地をトラクターで農地化するとともに、島民にも栽培をお願いし、2018年度は1.2トを収穫しました。

JA・市・島民団体は発売を記念して3月19日、西尾市役所にて「完成記念報告会」を開催し、関係者へ商品概要や取り組みの経緯を説明するとともに、出来上がった芋焼酎「sakushima 咲島」を全員で味わいます。また、佐久島の居酒屋&カフェ「じょえる」による、芋焼酎を利用したカクテルもご紹介します。

披露会では報道機関の記者の方々が取材いただけるよう、対応の時間を設け、質問等をお受けします。

※ 記者の方も芋焼酎「sakushima 咲島」およびカクテルを試飲いただけますが、飲酒運転とならないようご留意ください。

### ■披露会 日時■

【日時】3月19日（火） 午後2時～

【場所】JA西三河 本店5階 大ホール

【出席者（予定）】

- ・島を美しくつくる会 会長 鈴木喜代司
  - ・JA西三河 代表理事組合長 名倉正裕
  - ・NPO法人ONE STEP代表 兼 Cafe&Barじょえる店主 笠間淳
- その他、JA西三河・西尾市・相生ユニビオ㈱等の関係者



### 【お問い合わせ・ご連絡先】

JA西三河（西三河農業協同組合）

〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当：岡田

TEL：0563-56-5214 担当者携帯：070-1414-4251

HP：<http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール：[kikaku@ja-nishimikawa.com](mailto:kikaku@ja-nishimikawa.com)

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発出しています。  
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料（ニュースリリース）」ページにも掲載しています。

# 佐久島産サツマイモの本格芋焼酎 「sakushima 咲島」



## ■商品紹介

「咲島 (sakushima)」は、佐久島産のサツマイモで出来た本格芋焼酎です。  
佐久島で収穫されたサツマイモ「紅はるか」を全量使用。高い糖度と上品な甘さの紅はるかを贅沢に使用しました。佐久島産サツマイモの醸し出す、華やかな香りとお力強い味わいを島の魅力とともに楽しみください。

## ■詳細

品名：本格焼酎「sakushima 咲島」  
 内容量：720<sup>ml</sup>  
 原材料名：サツマイモ（佐久島産）、米麴（西尾市産米）  
 販売者：西三河農業協同組合  
 製造者：相生ユニビオ株式会社  
 希望卸売価格・希望小売価格：未定  
 製造予定数：約1300本

### 【販売店（予定）】

- ・JA西三河 さかなセンター店（一色さかな広場内）
- ・JA西三河佐久島店  
佐久島の民宿・料理店・居酒屋など

## ■本格芋焼酎「sakushima 咲島」の ここがポイント！

### ① 「おひるねハウス」モチーフのラベル

佐久島を訪れたことのある方ならだれもが気づく印象的なラベルは、島の人気観光スポット・「おひるねハウス」をモチーフにしたものです。

佐久島でひきこもり・不登校児を支援しているNPO法人ONESTEPと、愛知淑徳大学の学生団体が協同で企画しました。おひるねハウスやイーストハウス・紫色の砂浜といった佐久島の名所をモチーフにしたラベル案が提案され、観光客へのアンケートなどを通して検討。佐久島を訪れる方の思い出に残るよう、若い感性での企画を行いました。



「sakushima 咲島」のラベル

### ② 化学農薬・化学肥料の使用を抑えたサツマイモを使用

島を美しく作る会が栽培管理を行っている、佐久島クラインガルテンの畑約10<sup>ha</sup>では、化学農薬・化学肥料を使わない栽培を行っています。

土壌の栄養分を補うため、10月のサツマイモ収穫後、緑肥として12月に同じ圃場で大麦を植え、畑へすき込みました。

耕作放棄地からの畑づくりであるため、畑としての土づくりはまだまだ発展途上。年々土壌を向上させてよりおいしいサツマイモを作るため、今後も工夫を重ねていきます。

### ③ 米麴も西尾市産米を使用、原料はすべて西尾市産

「咲島 (sakushima)」の米麴には西尾産の米「コシヒカリ」を使用しています。原料となっているのは佐久島産のサツマイモとこの米麴だけ。100%地元産にこだわった、地元ならではの味わいです。



おひるねハウス

# 佐久島の新名産品めざす「サクのいも」 芋焼酎の製造販売、今後は島内で加工品販売も企画中

## ■「島づくりのNEXTステージ」プロジェクト

島を美しくつくる会は平成28年度より、佐久島への移住・定住・交流促進事業「島おこしのNEXTステージ」をスタートさせました。同プロジェクトは下記の3つの柱からなっています。

- ①農産物の栽培から収穫体験と移住後の生活に結び付ける取り組み
- ②古民家を利用した定住促進PRと島の自然体験ツアー
- ③島民交流によるコミュニティの活性化と島の新たな「目玉」事業づくり

プロジェクトには、西尾市・周辺市町の企業や市民団体・NPOなどが数多く参加。JA西三河は農業分野である「農産物の栽培から収穫体験と移住後の生活に結び付ける取り組み」に参画し、その一環として下記の「サクのいもプロジェクト」などの新たな農業名産品育成と、その加工品づくりを行うこととしています。

## ■サクのいもプロジェクト

### ——佐久島の新名産品を作れるか

島を美しくつくる会とJA西三河・西尾市は、「サクのいもプロジェクト」と題して、佐久島でのサツマイモの生産・加工品作りと観光客向けの販売に向けて平成29年度より活動しています。

観光振興を島民収入につなげ、島の経済活性化とともに、魅力PRを通じた定住拡大を行うことが狙い。これにむけてJAは、サツマイモの栽培計画作りと苗の調達、島民への栽培の普及と栽培指導、集出荷と販売ルートの構築などを担うこととなりました。

### （平成29～30年度）

取組1年目となる平成29年度は、島の地質や気候に適するサツマイモの品種を選定するため、佐久島クラインガルテン北側の畑約4.5㍓で栽培試験を実施。11月に様々な品種のサツマイモ約500kgを収穫しました。加工品作りに向けて9月、島民・JA・西尾市と相生ユニビオ(株)、愛知淑徳大学の学生らをまじえた検討会を開催。平成30年5月には、初の試作品である佐久島産サツマイモを利用した芋焼酎の試飲会を開きました。

翌年は前年の試験結果を基に、品種を「紅はるか」に統一。佐久島クラインガルテンでの栽培面積を約10㍓まで拡大したほか、島民7人が自らの畑でサツマイモを栽培。総面積約13㍓で約1.2㍏を収穫しました。

### （平成31年度）

今年も5月頃にサツマイモ栽培を開始予定。JAではサツマイモつるの供給や島民への営農指導を通して、今年度も佐久島でのサツマイモ栽培をサポートします。



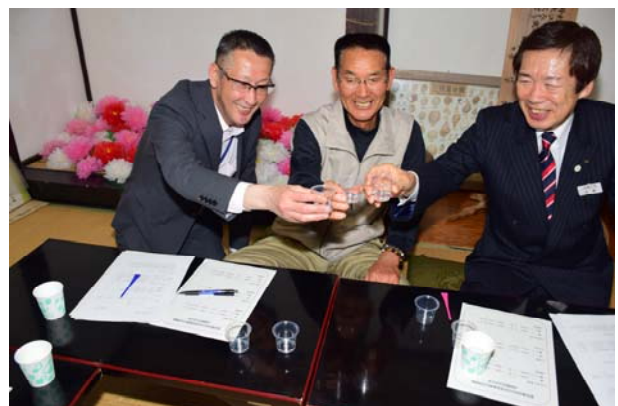
試験圃場でのイモつるの植え付け（平成29年6月）



市・JA・相生ユニビオ・島民団体・学生が新たな名産品作りを話し合う（平成29年9月）



佐久島産サツマイモの収穫（平成29年11月）



佐久島産サツマイモ芋焼酎の試飲会（平成30年5月）  
品種ごとの味の違いなどを確認する

## JA西三河の佐久島振興策 ～離島のライフライン・暮らしに欠かせない存在として～

### ■ JA西三河佐久島店のはたらき

JA西三河佐久島店は、島の生活インフラの担い手として、島民・組合員の生活に貢献しています。

佐久島にある金融機関は郵便局を除けばJA西三河のみ。支店のATMは口座振込などの資金決済などに役立てられています。また新鮮な野菜が届きにくい島民の多くは家庭菜園を営んでおり、JAは野菜苗や肥料の供給を通じて島の暮らしを支えています。

また佐久島店では、Aコープ一色店への食料品の注文を取りまとめ、一括して発注。商品が渡船に乗って届く火曜日・金曜日には、商品の受け取りに多くの利用者が佐久島店を訪れます。



Aコープの商品を受け取りに佐久島店を訪れた利用者

### ■ 「組合員の集い」、

#### 佐久島の保育園・小中学校へ新米寄贈

毎年9月頃には、佐久島店で「組合員の集い」を開催し、組合長をはじめとする役職員が佐久島を訪れてJA事業の概況を説明。また同日に「組合員感謝祭」として地元産の米や果物、花や鮮魚、日用品などの即売会を開き、佐久島店は非常に多くの組合員でにぎわいます。

また、佐久島小・中学校へ新米を寄贈することも恒例行事。西尾で採れた新米を寄贈しています。平成29年度より佐久島保育園へも寄贈を開始。島の子どもたちのすこやかな成長を応援しています。



米を贈るJAの名倉組合長（後列中央）と、佐久島小の黒柳校長（後列左2人目）、佐久島中の牧野校長（後列左端）、佐久島小5・6年生の児童ら（平成29年9月）

### ■ 市と連携して耕作放棄地対策、新たな名産品作りへ

佐久島のJA組合員・利用者からは、農業者の減少から佐久島における田畑が耕作放棄地となっていることを問題視する意見、解決への要望がJAに寄せられていました。

これを受けてJA西三河は平成28年12月、西尾市に向けて行った農業政策に関する要請の中に「佐久島における耕作放棄地の対応」を設けました。また、その働きかけとして平成29年の4月、農業用トラクター1台を西尾市を通して佐久島へ寄贈しました。

このトラクターはこれまでに、島民団体の管理のもと、島の耕作放棄地の耕起と農地作り、景観植物の植栽地づくりなどに活用されています。またサツマイモ栽培のための農地拡大にも利用されています。

今後もJAは、佐久島のさらなる活性化のため、サツマイモの栽培拡大・販路拡大にむけて西尾市への政策提言などを行い、ともに取り組んでまいります。



トラクターを寄贈するJAの名倉組合長（中央）と西尾市の榊原市長（左）、島を美しく作る会の鈴木代表（右）（平成29年4月）

※平成29年度より市・島民団体とともに取り組む「サクのいもプロジェクト」については前ページを参照ください